

SI スクールアイデンティティ



AI 技術等の爆発的な進化によって、産業界が大きく変化していく中でも、人間らしい感性や「0から1を生み出す」クリエイティブな能力を持ったデザイナーやエンジニアはこれからも必要とされている。このSIは、本校の特色でもあるデザイン思考を基礎とし、「課題を自ら見つけ出し、自ら考え、解決する」有為な人材の育成を目指している。

本校の教育目標

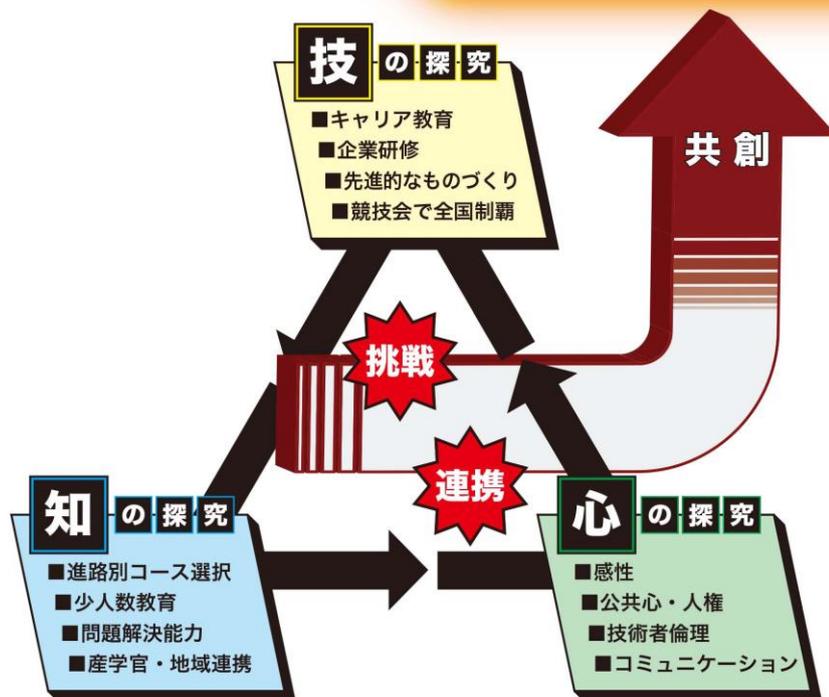
自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、
自分で歩いていく生徒の育成

社会の発展に寄与するスペシャリストの育成



令和3年度重点目標について

「知・技・心の探究を通して、自ら考え、挑戦し続けるスペシャリスト」を育成することを基本方針とし、グローバルな視点を持ちながら、様々な外部機関との連携により社会(地域)に貢献し、新しい価値の創造に挑戦する工業教育を推進する。

新学習指導要領の趣旨に基づき、社会のニーズを取り入れた「社会に開かれた教育課程」を構築する。また、「高校生のための学びの基礎診断」等を実施し、「確かな学力」の定着・向上を図る。

① 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた本校の教育課程の構築

「総合的な探究の時間 one by design」を実施し、より探究を重視したプログラムを今年度軌道に乗せることができた。

次年度1年生より、新教育課程が施行されるため、カリキュラムマネジメントに基づき、今後も普通科・専門科、教育課程小委員会、教育課程委員会など、様々な会で検討を重ね、PDCAサイクルを実施していく。

② 「いのちの大切さ」を実感させる教育 自殺予防、障害のある生徒への対応、いじめ防止、 人権教育の充実

相談係2名を配置し、管理職、SC、サポート委員会等との連携により、生徒の困難な問題にも対応できた。今後、サポート委員会を中心として、更なる強固な生徒の支援体制を構築する。

③ 「確かな学力」の定着向上を図り、高い進路目標を達成

「高校生のための学びの基礎診断」等の実施

令和元年度より「高校生のための学びの基礎診断」を実施。振り返りのプログラムを設定し、「確かな学力」向上に努めた。

今後、授業改善等に向けた取組を推進し、着実な学力定着を図る。また、安易な進路選択をさせないように、確実なキャリア教育を実践していく。

④ 産学官・地域連携事業を強化し、 市民への情報発信を推進

工芸版デュアルシステム、KDO、企業連携等、コロナ禍ではあったが幅広く生徒達が活躍した。市民からも高い評価を得、生徒達の大きな自信となった。

また、防災教育にも積極的に取り組み、全国的に高い評価を受けている。次年度も、産学官・地域連携を充実させて、成果を発信していく。

次代に向けて、特色ある教育課程を構築

次年度からいよいよ新学習指導要領に基づく教育課程が実施される。今後も最新情報の収集、生徒の興味付け、関心、魅力ある授業をどのように実施していくかを継続的に議論していかなくてはならない。

令和元年度より、新学習指導要領を見通して、「総合的な探究の時間」や「高校生のための学びの基礎診断」を実施した。「総合的な探究の時間」は、本校のスクールアイデンティティである「one by design」を科目名とし、より探究活動を重視している。また、「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、「多面的な評価」や「学力向上」について「マナフェス」を実施した。

キャリアナビゲーター(常駐)と連携し、魅力ある本校のキャリア教育が推進できた。次年度からの新教育課程の実施にあたり、3年間の系統立てたキャリア教育をコアプランとしていく予定である。

令和3年度各分掌重点目標・達成状況・課題など

総務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
専門委員会のさらなる活性化を図るために、各委員会の目的、内容を精選し、統合整理を目指す	専門委員会の目的・内容・構成等を再確認し、より効率的で円滑な運営ができるように整理する。	A	各委員会が様々な業務の円滑な運営ができるように、専門委員会等の一覧表を作成し、それぞれの目的・内容・構成等を整理することができた。	各委員会の位置づけを確認し、それぞれの業務内容の精選や見直しを行い、学校全体で合理的な運営体制を整える。
設備の新規導入や更新の推進を図り、学校全体の環境整備に努める。教員用タブレットの導入に伴う、学校ICT利活用の推進を図る	教科学科、各分掌と連携を図り、教育環境の充実、安全管理、感染症対策、GIGAスクールに対応したICT関連の校内インフラ整備に取り組む。	A	GIGAスクールに対応したアクセスポイント・教室用プロジェクタ等のインフラの整備や、BYODの実施に向けた試験的運用を推進できた。教職員間でもICTを活用した連絡業務や会議などを実施できた。また、感染症対策に対応した環境整備を進めることができた。	次年度から本格的に始まるBYODの運用を推進するため、校内インフラのさらなる整備を行い、GIGAスクール構想に対応した授業が展開できるようにする。教職員においてもさらなるICTの利活用を推進していく。

教務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
新学習指導要領に基づいた観点別評価について、試行、準備を進める	一部の教科学科に試行をお願いし、その結果を他科に広げ、来年度へ向けての準備を進める。	A	観点別評価の試行を行った結果を全体で共有した。新しい観点別評価について、3観点の割合を工芸高校でどのように、設定するのかについての議論を行った。	「主体的に学習に取り組む態度」を中心に、今後も継続して情報交換を行い、指導と評価の一体化に努めていく必要がある。
ICT機器をうまく利用するための研究、情報交換の推進を図る	タブレットやBYODを効果的に活用する方法について、研究をする。	A	タブレットを活用し、ロイロノートを用いた授業についての研究を進めた。	新型コロナウイルスの影響もあり、GIGAスクール構想の下ICTのハード面の環境整備が進んでいる。ICT活用の研究を進め、今後の時代に応じた新しい教育の在り方を探っていく必要がある。
成績処理、要録など本校独自のシステムで行っていたものから、名古屋市立高校へ一斉導入される校務支援システムへの移行準備、作業を進める	校務支援システムについて研究し、成績処理や要録へ利用できるように準備を進める。	A	2学期の成績処理より、校務支援システムを利用した。今年度の指導要録についても、校務支援システムを活用できるよう準備を整えた。	成績処理において、ミスが出ないように仕組みづくりを構築していく必要がある。

生徒指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
基本的な生活習慣を確立させる	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻時の声かけによる様子の確認。 担任、学年会と情報共有をした上で、面談やゆとり登校を実施。 関係各所との情報共有。 	B	遅刻時の声かけによって、特に年度はじめでの遅刻数を減らすことができた。学期に4回以上の遅刻をした生徒に関して、面談の前後で担任と情報共有をし、複数でのサポート体制を築くことができた。	2学期以降に面談やゆとり登校になる生徒が増えたことから、その原因を探る。また、関係各所と連携した上、より丁寧な対応をしていく。
生徒が安心、安全に過ごすことができるよう、担任・学年会・学科との連携、情報共有を密にし、予防的な取り組みを考える。特に近年課題となるSNSトラブルに関する啓発的活動を企画、運営する	<ul style="list-style-type: none"> 学年会とのやりとりを密にし、生徒の様子の把握に努める。 携帯、スマートフォンに関する講演会を企画、立案する。 	A	携帯、スマートフォンに関する講演会を年度はじめに実施するができ、それらのトラブルについて啓発することができた。学年会の情報を生徒指導部内でも共有し、生徒の様子を把握することで、指導に生かすことができた。	SNSトラブルをより一層減らすために、年間を通じての啓発指導を検討・実施する。

生徒会部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒同士が学校生活の課題解決に向けて、計画立案や役割分担をし、協力して自主的、実践的に取り組むことへのサポートを継続する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒議会や、生徒の意見を受け付ける「工芸生の声」などを活用し、生徒が積極的に生徒会活動に参加できる環境を作る。 各委員会の任期を通年にすることで、それぞれの委員会活動が計画を立案し取り組むだけではなく、次年度へ向けた振り返りができる時間を確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 分散登校期間は生徒議会や各委員会が活動できず、生徒会としての活動が停滞した。 体育祭が延期するなど行事の変更を余儀なくされ、計画通り活動することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 分散登校や臨時休校などでも生徒会活動が継続的にこなえるような取り組みを検討する。 各委員会の振り返りの時間が充実するような具体的な方法を検討する。
部活動の適正なサポートと、広報活動をおこない、学校全体で支援する環境整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> 部活動担当者を一本化することで、部代表者会や部調査など部活に関わる業務が円滑に進むようにする。 部代表者を通して部全体への意識付けを行い、部内から適正な部活動運営を行う。 問題点を改善した部予算配当を提示し、明瞭かつ継続的な支援ができる部予算配当を実現する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動担当者を一本化し、生徒には担当者がわかりやすい形を示すことができた。部顧問にはマイクロソフトteamsを利用するなど円滑な部活支援をおこなうことができた。 部代表者会において部全体への連絡を徹底させ、それを受けて各部での運営を行うことができた。 部顧問の意見を踏まえた新たな部予算配当を作成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の実績などを校内外に広報し、学校全体で部活動を応援できるような環境づくりを行っていく。 老朽化が進む部活動備品の整備を検討する。 新しい部予算配当を実施し、妥当性があるか審議する必要がある。

進路指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
キャリアマネジメントの見直しと改善を図る	3年間を通じた進路行事の流れを確認し、各行事での目的を見直しする。	B	キャリア教育にかかわる進路行事が、3年間の流れの中でどのように積み重なっていかを整理することができた。	社会の変化に対して必要なキャリア教育のために行事の内容を検討していく。
生徒が自らの能力・適性や学習の成果に合った進路選択ができるようにサポートする	生徒が自身の能力や適性など知ることで、学習の成果と合わせた進路選択ができるように促す。	A	探究活動や職業適性検査の結果から、自らの進む道を選択できるように、担任や学科の協力を得てサポートすることができた。	コロナの影響で次年度の3年生はONE BY DESIGNや就業体験などの進路指導の機会が少なかったため、進路選択に向けて丁寧なサポートをしていく。
新型コロナウイルスによる社会情勢への変化に対応していく	社会情勢に応じて、進路指導に必要な準備対策を行う。	A	オンラインによる企業見学会、就職試験などに対応する環境を整えることができた。企業や大学などの直接訪問も受け付けた。	今後もオンラインによる見学会などの増加が見込まれ、利用する部屋の確保など環境整備を行っていく必要がある。社会情勢に合わせて柔軟な対応が求められる。

保健部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題
生徒が健康的な生活習慣を身に付け、感染症に気を配りながら健康で明るい学校生活を送ることができるよう指導・助言する	生徒自身が心身の健康に向き合う機会を設ける。また、感染症予防を日常的に呼びかける等、学校生活における感染症予防に努める。	B	ほけんだより作成、性講話後の掲示物作成等、生徒主体で健康に関する活動を行うことができた。また、生徒が感染症予防を呼びかけることで、生徒が感染症予防を意識して学校生活を送った。	継続的に、生徒自ら感染症予防を中心に心身の健康に留意し学校生活を送ることができるよう指導・助言する。
生徒の情報を収集する体制を整え、教職員やスクールカウンセラーが連携をして生徒へのサポートを充実させるとともに、見守りが必要な生徒の早期発見に努める	教育相談係と養護教諭を中心に、教員同士が密に連携を取り、見守りが必要な生徒の早期発見を図る。	A	SC、養護教諭、教育相談係、担任等、職員が配慮に必要な生徒の情報共有を密に行い、学校生活の配慮に結び付けることができた。また、「こころのSOS」を定期的の実施し、教育相談活動に役立てることができた。	今年度同様、職員で配慮が必要となる生徒の情報共有を密に行い、学校生活の配慮を検討する。また、見守りが必要な生徒の早期発見に努める。

図書部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度の課題・改善
生徒の図書館の利用促進	生涯を通じて読書に親しむ習慣を身に付けられるよう、生徒に向けた図書館利用の促進に努める。	A	図書の廃棄や書棚の撤去、本の配置の番号順による並べ換えなどを積極的に行った。図書委員に読書感想文シートを作成してもらい、「私の推し本」コーナーを作った。	本の貸出数は増えたが、一部生徒に集中している現状である。授業内でも積極的に本の貸出を行ってもらえるよう、働きかけた。
図書館の設備充実	授業や課外活動で利用できるよう、専門書の充実および生徒に資する図書の選定に努める。	A	図書委員による書店見学会や図書室に寄せられるリクエストシートを通して、生徒が求める図書の選定をし蔵書を充実させることができた。	蔵書管理用システムが古くなっているため、更新（新調）が必要な時期に来ている。

広報企画部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
今後の工芸高校としての広報活動の在り方を検討する	情報の収集 ・入試状況の分析 ・広報活動に必要な資料の収集・分析	A	中学校訪問時に、現状把握をするための資料の収集の実施を行うことができた。	広報企画部の存続を含め、学校全体とした工芸高校の広報活動を考えていく必要がある。
関係部署との連携を図り、安定した受検生の確保のための情報収集・分析を行い、活用方法を検討する	・中学校訪問の企画・立案・まとめ ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・入学案内、学校パンフレットなどの製作	A	昨年度に引き続きコロナの状況を見ながらの実施となった。 説明会については、オンラインを活用したものを実施することができた。	広報活動の対象を整理し、対象にあった発信方法を検討する。 リアルタイムに工芸高校の情報を発信する。(ウェブサイトを活用や、パンフレットの刷新等)

工務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
特色ある工業教育 (デザイン・ものづくり)を実現するための施策を展開していく	本校のスクールアイデンティティ「ONE BY DESIGN」に基づいた教育課程を元に、評価等の運用について考えていく。	A	新教育課程が固まり、各学科の特色に合わせたカリキュラム運用の準備が整った。	完成年度に向け、運用していく中で、特に各学科に共通する課題について情報共有し、必要に応じて見直していく。
産学官連携事業 (KOGEI DESIGN OFFICE)の活動を展開させていく	ロードマップに沿った計画を進めていく。 ともに、次の5年の計画を実現可能な形で考えていく。	B	KD0 発足当初の計画を実現することを目標に活動してきたが、現場の状況に合わせて調整しながら活動している状況がみられる。	7学科共有の教育の場として活発な活動が安定的に続けられるよう、生徒の利益や担当教員の負担などのバランスを考えながら、引き継ぎ可能な計画を検討する。

